

「惻隠の情(そくいんのじょう)」

会長「私は、本の虫のようなところがありまして、新田次郎の作品が気に入っています。その、新田氏の息子で、数学者の藤原正彦氏が父から言われた孟子の名言、『惻隠の情』と言う言葉を大切にしています。」

佐野「『惻隠の情』とは、どのような教えなのでしょう？」

会長「辞書には、『相手の心情を深く理解すること。相手の立場に立って物事を感じ取ること。』等と書かれています。今、私たち民生委員として表現する場合は、少し捉え方を変えた方が良いと思います。」

佐野「捉え方を変える？」

会長「はい、相手の心情や立場を理解することは重要な事ですが、線引きをしてしまう恐れがあります。要は、多勢に無勢、多数決の原理等のように少数の意見や考え方が蔑(ないがし)ろにされる場合が生じると思うんです。しかし、民生委員としては、無勢の側、少数の側の心情を忘れてはならないと感じてきました。」



佐野「確かに忘れてはならない視点ですね。しかし、結論が出にくくなると思うのですが・・・。」

会長「最終的には同じような結論になるのかもしれませんが、無勢側の心を慮(おもんばか)る、余裕が必要だと思います。何故意見や捉え方が異なるのか、奥底にある心に触れ、共感し接点を探していく過程こそが重要ではないでしょうか。急ぎ過ぎる結論は、後の不満となって表れる場合もありますからね。」

佐野「確かにそうです。自分自身の考え方も、一定しているようで一定ではない。日(時間)を置いてみると新たな考えに気付いたり、相手の言葉が素直に理解できることも少なくないと感じます。踏みとどまる勇気を持つ、心の余裕が必要ということですね。」

会長「『惻隠の情』という直接の意味や、隠された本質を探りながら民生委員として活躍していただければと思います。」

佐野「『惻隠の情』を、心においた寄添い支援を実践することが民生委員の心構えということですね。物事には表裏がある訳ですから、民生委員だからと言って、正論だけでは困っている方々への寄添いにはならないことがよく理解できました。行動面では如何でしょうか？」

会長「今は行動が制限され、思った活動が難しいと思います。半面、多少なりとも時間もあると思いますから、これをチャンスととらえ、支援が必要な方や気になる方について整理しておく必要があると思います。新任の委員の皆さまも、前任者から引き継いだ資料もあると思いますから、この機会を活用